

1. 調査報告概要表

作成日 2007 年8月10 日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400235
法人名	有限会社 ころ
事業所名	グループホーム ころ
所在地	甘楽郡甘楽町大字白倉557 (電 話) 0274-74-4300

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	前橋市大友町2-29-5 コミュン100-B
訪問調査日	平成19年7月18日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 9 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 7.6

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	-----------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 250 円 昼食 250 円 夕食 250 円 おやつ 100 円 または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	81 歳	最低 52 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院・公立七日市病院・こがはらクリニック・安藤医院・上
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

“家族だもん 怒ったり 泣いたり 笑ったり いいんじゃない”利用者と職員が共に過ごし、支えあい、ゆったり生活しているホームである。管理者、職員一同は連携が良く、ケアサービスの質の向上を目指し取り組んでいる。木造りの室内は天井が高く開放的である。新鮮な外気の取り入れには特に気を配っている。利用者は玄関入口のテラスで椅子に座り、外気浴やボール投げ等を楽しんでいる。歩行練習の場所も設置する等、利用者が快適に過ごせるような環境整備をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 現状に即した介護計画の見直しを行うようにした。緊急時の手当てでは管理者が講師となり、毎月1回介護技術の研修会を行っている。感染症対策では職員が研修会に参加したり、かかりつけ医に職員・家族が感染症に関しての指導をもらった。職員は交代で段階に応じた研修に参加している。事務室の入口にある薬の入った容器は、設置場所が改善されていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、介護支援専門員、職員3名で作成し、職員全員では取り組んでいない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議では行事報告、議題提案を行い、質疑応答。区長に区の行事を開いたり、ホームで毎月開催されている介護研修会に地域の人達の参加を呼びかけていく。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情及び相談受付を文書で明示しており、管理者がホーム側の窓口になっている。家族の面会時にはなんでも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。運営推進会議にも家族に出席してもらい、意見や要望等聞くようにしている。家族からの意見で、栄養士の指導を受け食事量の改善に取り組んだ。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元の人達に散歩時に挨拶を交わしたり、お茶飲みの誘いをしている。近所のヘアーサロンを利用し、店主には運営推進会議に出席してもらっている。自治会に加入している。小学校の運動会に参加したり、ホームの見学や中学校の職場体験学習、ボランティア等受け入れている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『地域に開かれた暖かい集いの場』とパンフレットに表示してあるように、地域密着型サービスとしての役割を考慮しながら、事業所独自の理念をつくりあげていこうと現在職員で検討中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を共有し、申し送りや会議の時等に振り返り、実践に向けて自主的な研修会を定期的に行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の人々に散歩時に挨拶を交わしたり、お茶飲みの誘いをしている。近所の馴染みのヘアーサロンを利用している。自治会に加入している。小学校の運動会に参加したり、ホーム見学や中学校の職場体験学習等の受け入れをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、前回の外部評価の改善課題には具体的に取り組んだ。自己評価は全職員で取り組んでいない。	○	評価は、一連の過程を職員全員で取り組むことで、職員の意識あわせ、日常のケアの振り返りや見直し等が可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていけるので、自己評価も全職員で取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームから行事報告や議題提案等行い、出席者からの質問、意見、要望等受け、話し合いを行っている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には役場担当者に出席してもらい、ホームの理解を深めてもらっているが、ホーム側からの積極的な働きかけは行っていない。	○	役場担当者に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れ伝え、関係づくりを積極的に行い、役場担当者とともにサービスの質の向上に取り組んでほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時には、利用者の健康状態や暮らしぶりについて話をしている。日常の様子等個々にあわせた報告と写真を家族に送付しているが、ホーム便りを発行していない。家族と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。	○	ホーム便りを定期的に発行し、利用者のホームでの暮らしぶりやエピソード等プライバシーに配慮しながら、家族や地域に向けて情報提供をしてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席してもらい意見を聞いたり、家族の訪問時には、なんでも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。家族への報告の中で、苦情・意見等言いやすいよう問いかけを行っており、家族等意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が対応することが重要と考えており、離職がやむを得ない場合も、日常的に係っている前管理者や事務職員がサポートしながら、利用者へのダメージを防ぐよう配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、管理者が講師となり、介護技術の研修会をホーム内で実施している。グループホーム連絡協議会の交換研修や介護実践研修等外部研修にも交代で参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者4つで連絡会をつくり、相互訪問や、交換研修等サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。開設準備中のグループホームの職員3名を実地研修で3週間受け入れた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームから面接に伺ったり、本人・家族に見学してもらいながら、本格的な利用に移っていけるよう支援している。入居後も家族に訪問してもらったり、帰宅や外出等利用者の希望に応じながら、ホームの環境に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、日常の生活場面や言葉の中から教えてもらう事も多い。喜怒哀楽を共にしながら、一緒に生活する家族の一員として、学びあい、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、一人ひとりの言葉や行動等から本人の思いや希望を把握するよう努めている。すべての職員が気付きや意見を書き出し、その情報を職員間で共有しながらケアに活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。職員が話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、状態の変化に応じて、その都度新たな計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院介助や送迎、買い物等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人や家族の意向を確認している。かかりつけ医が月一回往診している。家族と協力して通院介助を行っている。複数の医療機関と関係を結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族に説明し、意向を受けとめ方針の統一を図っている。かかりつけ医・看護師・家族・職員で状況の変化に応じたくり返しの話し合いをしながら、その都度対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう、職員会議の時等に確認し合っている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、散歩や買い物、レクリエーション等、柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食材の買い物や野菜の下ごしらえ、テーブル拭き等準備を一緒にしている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には火・金、週2回午前と午後に入浴支援をしている。夜間に足浴する場合もある。	○	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの習慣や好みをよく聞いて、相談しながら個別にあった入浴の支援をしてほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、調理手伝い、歌のリーダー、ボール遊び、ぬり絵、掃除、ドライブ、デパートへの買い物、季節の花見等役割や楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭での歩行練習、近隣への散歩、食材の買い物、ドライブ、季節の花見、地域の祭りや老人会のイベントに参加する等日常的に戸外に出るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保しながら、日中は門、玄関の鍵をかけておらず、他の戸口や居室等も網戸で開けており、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急通報マニュアルが作成されており、年2回全員で避難訓練を実施している。運営推進会議で区長に協力依頼をした。近隣の人達にも訓練の参加を呼びかける予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、栄養バランス、水分量等記録し、職員は情報を共有しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口周辺にタイルを敷き、手すりを設置し、歩行練習ができるように整備した。入口のテラスにはベンチや椅子が設置されており、外気を吸いながら皆でレクリエーションをされていた。室内は天井が高く、壁には木材がふんだんに使用されており、木製のベンチも設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家具や衣装ケース、衣類等、馴染みのある物が持ち込まれおり、落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		